

群 教 セ	G01 - 04
	令6.287集
	国語－高

高校国語において 自分の学びを調整できる生徒の育成

— 単元内自由進度学習を促進するための
振り返りシートの工夫を通して —

特別研修員 後閑 貴仁

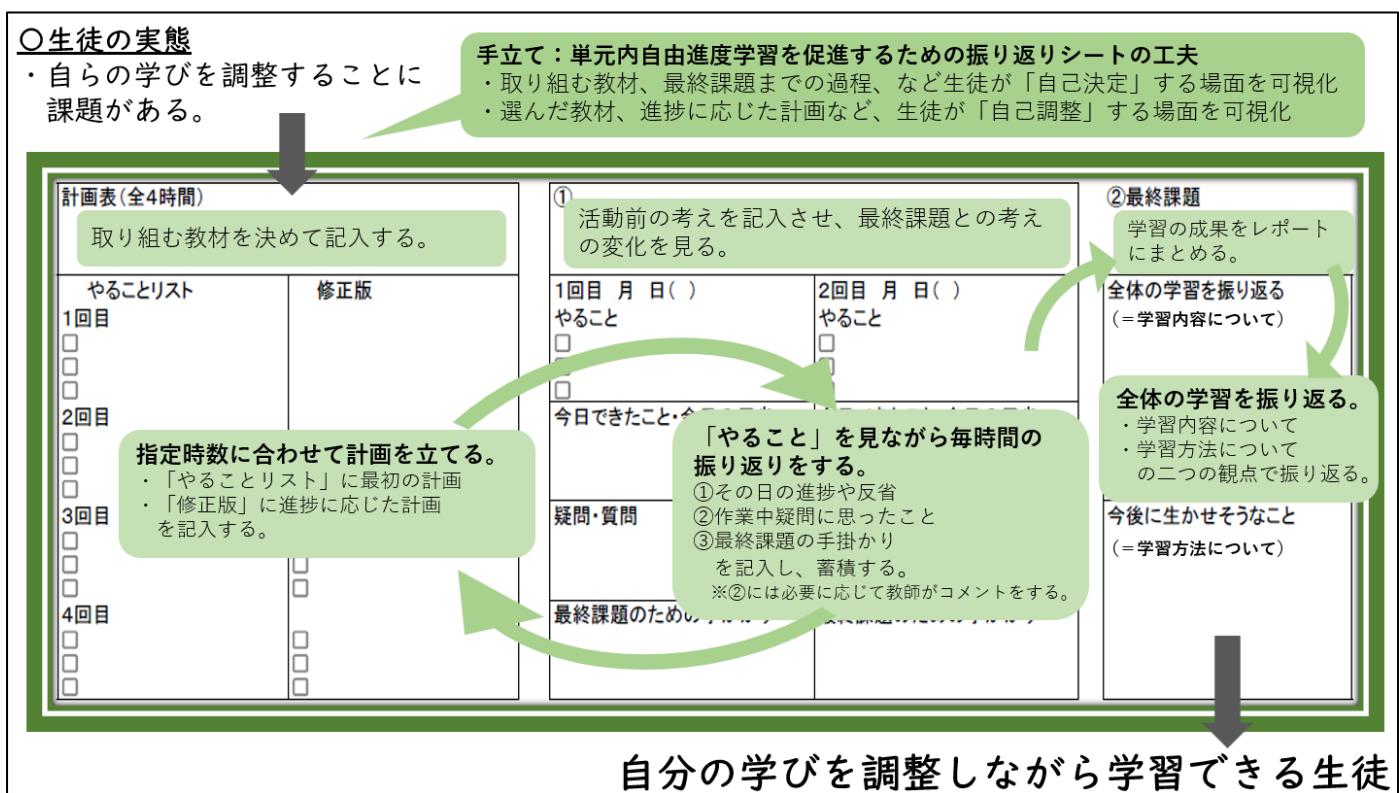
I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編においては、生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力の向上に加えて、生徒の「主体的な学習」を実現することが求められている。また、『群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）』においては、「群馬県の教育が目指す5つの学習者像」の一つとして「自らが主語となる学びをつくり、深めていく」というものを挙げている。

研究協力校においては、言われたことをこなすことのできる生徒は多いが、主体的に学びを深めたり、自分の学びを調整したりすることに課題が見られる生徒もいる。これは、授業中に生徒が自己決定をする場面が少なく、教師の指示を待って受動的に学習していることや、学習中にどのように学びを調整したらよいのか分からぬということが原因として挙げられる。「単元内自由進度学習」を取り入れることで生徒の主体性を引き出し、振り返りシートを工夫することで生徒の自己調整を促すことができれば、学習指導要領等で求められる「主体的な学習」を実現することができるのではないかと考え、テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

生徒たちが、学習中に自己調整をすることで主体的に学ぶことができるよう以下のような手立てを講じた。

手立て 単元内自由進度学習を促進するための振り返りシートの工夫

本研究においては、研究主題として掲げた生徒を育成するために単元内自由進度学習を取り入れた。それは、単元内自由進度学習の授業においては生徒の自己決定の場面や自己調整の場面が重要であり、これらの場面を設けることが研究主題達成の一助となると考えたからである。計画と課題遂行の場面で自己決定の機会を設けるために、本研究では単元の課題は共通で示した上で、そこに至るまでの過程を生徒が決定するという形にした。また、授業中の取り組み方についても生徒がその時に学習しやすい形を選べるようにし、個人でもグループでもよいこととした。その中で自己調整を促すために、Googleスプレッドシートを用いた振り返りシートを用意し、1枚のシートの中で計画と振り返りをできるようにした。進捗状況などを記録し、自分の計画と照らし合わせた振り返りを行うことで、進めるスピードや取り組む内容について生徒自身の自己調整を促すことが目的である。また、単元の最後に古典の学習で大切だと思う力について振り返らせることで、本単元での学びを今後に生かせるようにした。

III 実践例

- 1 単元名 「『伊勢物語』の複数の章段を評価して、和歌の効果やはたらきを考えよう」
教材名 『伊勢物語』「芥川」「あづま下り」「筒井筒」（第1学年・2学期）

2 本単元（題材）について

本単元では『伊勢物語』の「芥川」「あづま下り」「筒井筒」の3編を扱う。これまで、言語文化の古文で物語や歌物語を扱ったことはないものの、これらの章段はいずれも短編であり、和歌についても比較的平易なものが多いため、古典を学び始めたばかりの生徒にとって取り組みやすい教材だと考えられる。

単元の課題として歌物語における和歌の役割をレポートにまとめる課題を設定した。その課題に向けて本文と本文中の和歌を別に提示し、それぞれの和歌が物語のどの部分に入るかを考えさせることで、生徒が本文と和歌の関係をより深く考えることを期待している。そしてその活動は、各章段における和歌の役割を考察することにもつながり、レポートを書く上で助けになると考えている。また、生徒たちはこれまでの古文の学習において、辞書の使い方や文法書の使い方、和歌の訳し方などを学習しており、本単元の活動によってそれらがどれだけ定着しているかを確認することができるようになっている。そして単元の最後に、「学習内容について」「学習方法について」という二つの観点で振り返りをすることで、生徒が自分の不足している部分に注目し、現在の自分の古文を読む力を評価できることになると考える。

高校段階の古典を学び始めたばかりの生徒にも取り組みやすい教材を用い、その中の和歌と本文の関係に注目しながら作品を読み解くことで、歌物語のおもしろさを味わうことが本単元のねらいである。

以上のような考え方から、本題材（単元）では以下のよう指導計画を設定し実践した。

目標	(1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや、古典特有の表現などについて理解することができる。((2)ウ)
	(2) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価できる。 (B(1)ウ)
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろう

	とする。	
評価規準	(1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ) (2) 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(B(1)ウ) (3) 粘り強く歌物語の複数の章段の特色を評価しながら、学習課題に沿って和歌の効果やはたらきを考察しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・単元の課題を確認し、それぞれ計画を立てる。
追究する	第2～4時	・それぞれの計画に合わせてプリント、スプレッドシートの課題に取り組む。 ・各章段の作業が終わった人は、Googleドキュメントの最終課題に取り組む。
まとめる	第5時	・それぞれの歌がどこに入るか確認する。 ・歌物語における和歌の役割を考察し、レポートにまとめる。 ・学習を振り返り、以後の学びに生かせそうなことを考える。

3 授業の実際

本時は全5時間計画の第2時に当たる。

(1) 手立てについて

4時間でレポートを書き終えることが目標であることを伝え、生徒にレポートを書き終わるまでの計画を立てさせた上で学習に取り組ませた。計画は実現可能なものを立てるよう指示し、それぞれの進捗に合わせて途中で変更可能であることも伝えた。それに加えて毎時間の最初に計画を見直して修正する時間を取り、自己調整の時間を設けた。実際に生徒が取り組んだものを見ると、取り組む教材や取り組む順番に違いが見られた（V 資料 図1）。また、同様の図から「修正版」の方にも計画を入力していることが分かり、最初に立てた計画を修正しながら進める様子も見られた。授業中、机や席の移動、取り組む相手を自由としたところ、教材が同じ生徒同士で取り組むグループもあれば、教材が違っても一緒に取り組むグループも見られた。また、一人で取り組む生徒もいたが、そのような生徒も必要に応じて友人と協力する様子が見られた。

振り返りシートについては、1枚のシートで計画と振り返りをできる形にした（V 資料 図2）。生徒は計画を立てるときに、自分が取り組む教材と単元の課題を達成するまでの過程を「自己決定」できるようにした。これが自分の学びに責任をもつことにつながり、生徒はより能動的に学習に取り組むことができた。また、授業の最初にレポートと同じ課題の問い合わせを投げ掛けておくことで授業前と授業後の考えを比較できるようにし、生徒自身が学びの深まりを実感できるような形にした。

振り返りについては、「今日できしたこと・今日の反省」「疑問・質問」「最終課題のための手掛けかり」の三つの観点を用意した。「今日できしたこと・今日の反省」については、自分で決めたその時間内にやることを見ながら振り返れるようなデザインにしているため、自分で立てた計画に対してどこまで達成できたのか、そして、どのような計画の調整が必要なのかが分かるようにするとともに、自己調整を促すことができるようとした。生徒が記入したものを見ると、「時間がなく、一つの和歌を選ぶことしかできなかつたので、次はもう少し早くできるよう頑張りたいです」というものや、「全然終わらなかつたので持ち帰りします」というものなど、進捗に合わせて自分のやるべきことを考えているような記述が見られた。「疑問・質問」については、どんなに些細なことでも入力してよいこととし、入力されたものに関してはGoogleスプレッドシートのコメント機能を用いて返信することで対応した（次ページ図1）。また、「最終課題のための手掛けかり」を毎時間蓄積できるような形にすることで、レポートを書くときの支援の一つとした。

単元の最後には、学習全体を振り返る項目を設けて本単元での学びを次の学びに生かせるように

した。最後の振り返りについては、「助詞や助動詞の意味などを知っていることは大切なんだなと思いました」というように文法的知識の重要さに気付いたり、「古文の単語を少しづつ覚えれば更に正確な訳ができると思いました」というように語彙の重要性に気付いたりなど、古文を読むときに必要な力を評価するような記入が見られた。

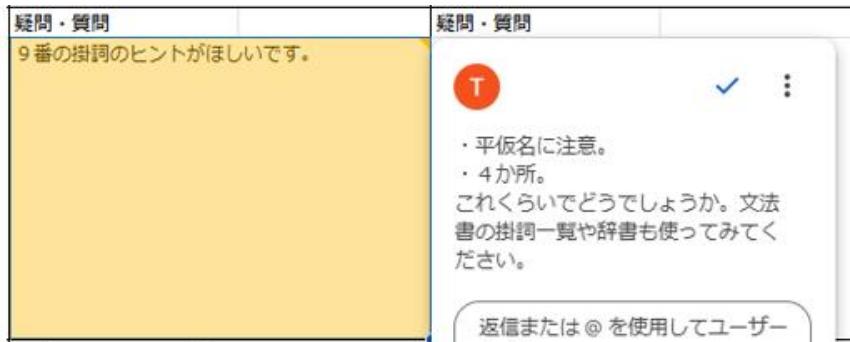


図1 左側が生徒の疑問・質問、右側は教師によるコメント

(2) 考察

〈V 資料 図1〉の左の生徒は、「芥川」、「あづま下り」に取り組んでおり、右の生徒は、「芥川」、「筒井箇」に取り組んでいる。多くの生徒がこのどちらかの組み合わせであった。生徒が考える和歌は、「芥川」で1首、「あづま下り」で4首、「筒井箇」で5首であるため、難易度を考えたときに前述の二つの選び方が多くなったのではないかと考えられる。古文に興味をもつ生徒や、成績上位の生徒の中には「あづま下り」と「筒井箇」を選んでいる生徒もいた。

授業中の生徒には、自分で設定した計画を達成するために、友人と協力したり自分で調べたりしながら学習に取り組む姿が見られた。学習の過程に自己決定、自己調整の場面を設けることで、生徒の主体的な学びを引き出すことができたのではないかと考える。

振り返りシートについては疑問・質問を入力する生徒や、自分の計画と照らし合わせた振り返りをする生徒が多く見られた。また、進捗に合わせて計画を変更する様子も見られた。計画と振り返りを1枚でできるようにすることで、学習の様々な場面で自己調整が促されたのではないかと考える。

また、本单元において、教科書の内容にとどまらず、インターネットや他の文献を用いながら意欲的に学習する生徒もいた。これは、自己決定、自己調整の場面を設けたことで、生徒が自分の興味・関心に応じて学習を進めることができたためだと考えられる。

IV 研究のまとめ

1 成果

生徒は振り返りシートを使って最初に立てた計画を基に自分の学びを客観的に振り返ることで、進捗に応じて自分の計画を変更したり、授業時間外にも取り組んだりするなど、それぞれの立てた計画を達成するために学びを自己調整しながら主体的に学んでいた。また、最後に単元全体を振り返る問いを投げ掛けたことで、古典を読む上で必要な力への気付きが生徒自身に生まれていた。その気付きは生徒に足りない部分を補おうという思いを育み、授業時間に限らない「主体的な学習」を促したと考える。

2 課題

課題の難易度が高すぎると感じる生徒がおり、学習が進まない場面があった。生徒の実態把握が重要であると、改めて感じた。また、学習が止まってしまう生徒に対するヒントについても、生徒が主体的に動けるように、それぞれの理解度に応じて出すなどの工夫が必要であると感じた。

V 資料

計画表（全4時間）	
・「芥川」 ・「あづま下り」	
やることリスト	修正版
1回目	
<input type="checkbox"/> 芥川の内容を理解する <input type="checkbox"/> 選んだ和歌を訳す	
2回目	
<input type="checkbox"/> 1回目の内容をより詳しく <input type="checkbox"/> あづま下りの内容を理解する <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 1回目の内容をより詳しく <input type="checkbox"/> 選んだ和歌を訳す <input type="checkbox"/> あづま下りの内容を理解する
3回目	
<input type="checkbox"/> あづま下りに入る和歌を選ぶ <input type="checkbox"/> 選んだ和歌を訳す <input type="checkbox"/> レポート開始	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4回目	
<input type="checkbox"/> レポートを終わらせる <input type="checkbox"/> 時間があったら筒井筒の課題	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

計画表（全4時間）	
・「芥川」 ・「筒井筒」	
やることリスト	修正版
1回目	
<input type="checkbox"/> 和歌を読む <input type="checkbox"/> 和歌を選ぶ	<input type="checkbox"/>
2回目	
<input type="checkbox"/> 訳を考える <input type="checkbox"/> 理由を考える <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3回目	
<input type="checkbox"/> 訳を考える② <input type="checkbox"/> 理由を考える② <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 訳を考える① <input type="checkbox"/> 訳を考える② <input type="checkbox"/> 理由を考える②
4回目	
<input type="checkbox"/> レポートを終わらせる <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

図1 生徒の立てた計画。取り組む教材に違いがある。途中で計画を変更したことも分かる。

計画表（全4時間）	
・「芥川」 ・「筒井筒」	
やることリスト	修正版
1回目	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
2回目	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3回目	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4回目	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

①歌物語に登場する和歌の効果やはたらきはどのようなものだと思う	②最終課題
1回目 月 日 () やること <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	全体の学習を振り返る (=学習内容について)
今日できたこと・今日の反省	今後に生かせそうなこと (=学習方法について)
疑問・質問	
最終課題のための手掛けり	

図2 振り返りシートのイメージ。実物は4回分振り返れるようになっている。

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

Google ドキュメント、Google スプレッドシートは、Google LLC の商標又は登録商標です。

なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。